

(5) 設備の状況

ア 高齢者等のための設備

居住世帯のある住宅数を高齢者等のための設備状況別にみると、「高齢者等のための設備がある住宅数」は3,157,200戸で、その割合は46.4%となっている。平成25年と比較すると、「高齢者等のための設備がある住宅数」は114,900戸増加しているが、その割合は0.6ポイント下降している。

また、「高齢者（65歳以上の世帯員）がいる主世帯が居住する住宅数」のうち「高齢者等のための設備がある住宅数」は1,324,600戸で、その割合は59.6%となっている。平成25年と比較すると、「高齢者等のための設備がある住宅数」は68,900戸増加しているが、その割合は1.7ポイント下降している。高齢者等のための設備の項目をみると、「手すりがある」が49.3%で最も高く、次いで「またぎやすい高さの浴槽」が26.1%となっている。

(表7、図7)

表7 高齢者等のための設備状況別住宅数（総数及び高齢者がいる主世帯が居住する住宅数）

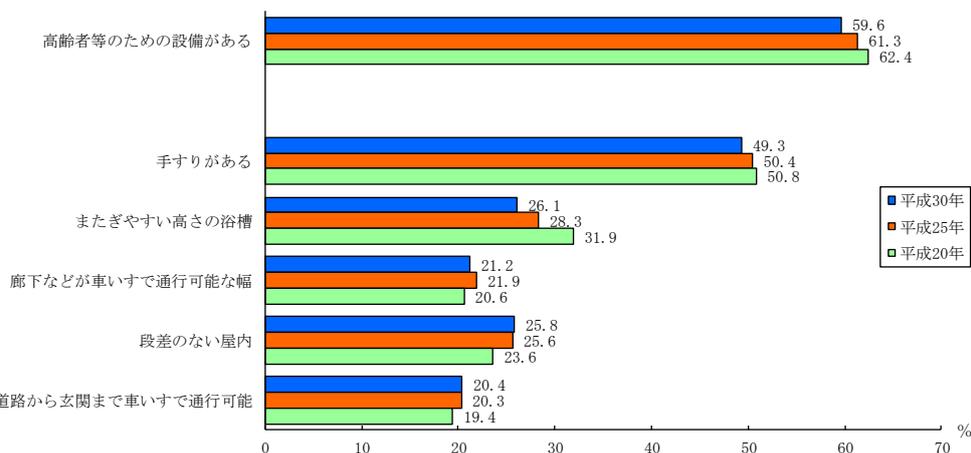
高齢者等のための設備状況	東京都												全国	
	平成20年				平成25年				平成30年				平成30年	
	住宅数	設備がある割合	高齢者がいる主世帯が居住する住宅数	設備がある割合	住宅数	設備がある割合	高齢者がいる主世帯が居住する住宅数	設備がある割合	住宅数	設備がある割合	高齢者がいる主世帯が居住する住宅数	設備がある割合	住宅数	設備がある割合
総数	5,939,900	—	1,639,700	—	6,472,600	—	2,047,700	—	6,805,500	—	2,223,800	—	53,616,300	—
高齢者等のための設備がある	2,663,400	44.8	1,022,500	62.4	3,042,300	47.0	1,255,700	61.3	3,157,200	46.4	1,324,600	59.6	27,269,600	50.9
手すりがある	1,892,700	31.9	832,600	50.8	2,255,600	34.8	1,032,000	50.4	2,369,600	34.8	1,096,700	49.3	22,385,600	41.8
またぎやすい高さの浴槽	1,247,900	21.0	523,700	31.9	1,305,200	20.2	578,800	28.3	1,225,900	18.0	581,500	26.1	10,069,800	18.8
廊下などが車いすで通行可能な幅	960,200	16.2	338,500	20.6	1,106,100	17.1	448,600	21.9	1,084,700	15.9	471,300	21.2	8,319,200	15.5
段差のない屋内	1,278,400	21.5	387,200	23.6	1,505,000	23.3	523,800	25.6	1,509,900	22.2	573,700	25.8	11,227,200	20.9
道路から玄関まで車いすで通行可能	976,300	16.4	318,000	19.4	1,112,100	17.2	415,900	20.3	1,127,000	16.6	454,600	20.4	6,451,100	12.0

注1) 「高齢者」とは、「65歳以上の世帯員」のことである。

注2) 設備の内訳の合計は、複数回答であるため、「高齢者等のための設備がある」と一致しない。

注3) 「平成25年住宅・土地統計調査 東京都の概要」表6における「65歳以上の世帯員がいる住宅数」と、本表中の「高齢者がいる主世帯が居住する住宅数」とは、集計対象が異なるため、数値は一致しない。

図7 高齢者がいる主世帯が居住する住宅の高齢者等のための設備状況別割合



注) 「高齢者」は、「65歳以上の世帯員」のことである。